

▶活発な意見が出されたパネルディスカッション



災害経験から安心安全を考える 市民防災フォーラムを開催

「養父市市民防災フォーラム」が2月25日、JAたしま八鹿宮農生活センターで開催され、一昨年の台風23号で被災された市民ら約200人が参加しました。

これは、災害時の対応について検証し、防災意識の向上と市民の意見を地域防災計画に反映させるために行われたものです。市民の方も参加したパネルディスカッションでは、「災害は一樣ではなく、地域ごとで状況は違うもの。だからこそ地域での取り組みが大事」、「女性の視点からも高齢者や障害者への配慮ができると思う」など活発な意見が述べられました。

また、矢守克也・京大防災研究所巨大災害研究センター助教は講演で「ふだんの生活や地域イベントの中に防災の問題を組み込むことで、防災意識をより高める」と話されました。



ロボットの動きに「喜」憂 ロボカップジュニア2006で熱戦

自分で組み立てたロボットを使ってサッカー競技を行う「ロボカップジュニア2006北近畿ノード大会 in 養父市」が2月26日、養父体育館で開催され、市内外から出場した10チームが熱戦を繰り広げました。

これは、子どもたちにロボット製作を通じて科学技術に関心を持ってもらおうと養父市などが主催したもの。ロボットに内蔵されたセンサーがボールの発する赤外線を感じて動き、得点を取り合うものです。

今回は、昨年の高専ロボコン近畿大会で優勝した明石工業高等専門学校がロボットの操作できる体験コーナーもあって、大勢の人でにぎわいました。



ロボットの動きを見つめる参加者ら

「鉱山遺構」でまちづくりを 鉱石の道シンポジウムを開催

明延、神子畑、生野の3地域に残る鉱山遺構をまちづくりに活用しようと、鉱石の道シンポジウム「見直そう わがまちの産業遺産」（養父市、朝来市、神戸大学主催）が2月4日、朝来市のあさご・ささゆりホールで開催されました。

鉱石の道事業が昨年10月、国の「全国都市再生モデル調査」の採択を受けたことから、両市などが「鉱石の道調査委員会」を発足させ、調査研究を進めていました。

シンポジウムでは、あけのべ自然学校の空きスペースを鉱山史料展示室に活用する案や「鉱石の道町並みマップ」の作成などが提案されました。最後に行われたパネル討議では、「まちづくりには住民の参画と熱意が必要。今回のシンポジウムが鉱石の道の実現への一歩となれば」などの意見が出されました。



活発な意見が出されたパネル討議